臨時号

グリーン・ウェーブ
GREEN WAVE
グリーンコープのうねりを地域へ

6/5 9/4 第二十四期 通常総代会報告

発行●グリーンコープ生協ふくおか　理事会
編集●広報委員会
福岡市博多区博多駅前1-5-1博多大博通ビルディング３F
TEL●092-482-7770（代）
ホームページ●http://www.greencoop.or.jp/

大きなゴールは仲間の一人として迎えたい

福岡地域理事長
大坪 亜野子

皆様、おはようございます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

物価の高騰、なかでも身近な野菜など、食品価格の高騰には日々頭を悩ませてしまいますね。天候が以前の常識を外れて、生産の現場が想定外の困難を抱えていることは、本当に心配です。

一次産業を大切にしてきたとはいえない日本が食べものに困ることは、起こるべくして起きていると言えるのでしょう。ロシアのウクライナ侵攻から2年以上が経ちましたが、終わる気配がありません。昨年10月以来のハマスとイスラエルの争いも、本当に恐ろしくそして痛ましいです。ロシアが港を封鎖するなどして、穀物やエネルギーの輸出も滞っています。輸入に様々を頼っている日本は、小麦や飼料などの入手も困難になりました。

食料自給率の低さをグリーンコープの活動を通じて実感し、国産の大切さを伝えてきた私たちですが、今でもあまり増えず38％とのことです。国産、そしてグリーンコープが頑張っている産直は、環境にも人にも良い方法だなと心から思います。広がってほしいです。

カーボンニュートラルに向かうことを生協として宣言して久しいですが、それ以来、新たに多くのことを学びました。最悪の環境破壊である戦争、それによる身近な影響、温暖化する地球でさらに広がる格差社会、必然的に望まれるこれまでの生活スタイルの変革、などなど。遠くのことと思えたり、目の前のことと恐れたり、忙しいです。気候変動に抗議するスピーチをしたことで有名になったグレタ・トゥーンベリさんなど、若者はより敏感です。そして、CO_2と気温の上昇の因果関係がわからないなど必ずしもCO_2が原因とは言えないなどの考え方を、知ることもできました。一足飛びに運動が進まなかったことにも意義があるのかな、と感じています。

人口の3・5％が動けば世界が変わるという『3・5％ルール』、または法則というものも、この間に知りました。政治学者など著名人が口にしており、学習会の講師からも聞きました。これは身近な人達100人を思い浮かべてそのうち3～4人が行動に移すことで、世界を変えることも可能であるというわけですね。

格差についても新しく学びました。自動車に乗って家電や服を買う、私たちのような人々の生活から排出されるCO_2により、地球が温暖化している一方、CO_2の排出にはあまり責任のない貧しい国の人々が、暑すぎるのにクーラーを買えないという状況があるわけです。

台所革命と言われている時がありました。私事ですが、水を汚さない生活を心がけるようになって30年以上経ちます。途中グリーンコープに出会い、グリーンコープのおかげで４Ｒができるようになりました。ゴミについても、15リットルの1袋を週1回出すだけだという人がいて、衝撃的でした。どうしたらそんなことができるのか、自分の生活を見直しました。脱プラを心がけ、雑紙もなるべくリサイクルに回すうちに、30リットルで済む週がでてきました。良い刺激を頂いたと思いました。

何事にも多様性が認められますけれども、これは１９８５年にできた男女雇用機会均等法がきっかけだといわれています。これまでの男性社会から、女性も障がいを持つ人も等しく社会に参画し、魅力的なアイデアが出やすくなり、良い変革が期待できる、ということがひとつの理由です。

反対に、画一性をもって組織はゴールを目指します。このバランスが大切、そしてとても大変です。グリーンコープで活動や運動を進める場面では、このことを実感することは少なくないです。大切にしていることは一人ひとり違うのかもしれません。それを互いに尊重し、大きなゴールは仲間の一人として迎えたい。一人ではできないことも多いからです。

それをするには、自分の頭で考える、自分で判断する、ということが前提にあると思っています。

組合員主権があり、それは尊重されるもの。そしてそれ以前に、人として何を大切にし、何を優先していこうか、に向き合う。それがどれだけできるのかが問われている時だなと、感じます。ただ「それを選べる私たちは幸せなのだ」と思っています。

本日もどうぞ有意義なご審議のほどをお願いいたします。

（福岡地域理事長　大坪　亜野子）

来賓祝辞

グリーンコープ運動をすすめてください

ネッツフーズ株式会社
吉村 孝志さん

皆さんおはようございます

ご紹介頂きました納入業者の会「グリーンクラブ」でふくおか支部長を務めておりますネッツフーズ株式会社の吉村です。

本日は第二十四期通常総代会のご盛会誠におめでとうございます。

グリーンコープさんは最近、メディアでも紹介される場面が多くあるのですが、「グリーンコープお願い」のＣＭが私はお気に入りです。

「これ安全?、これ安心?」から「グリーンコープお願い」というコピーが私のこころにささりました。

グリーンコープさんは、徹底した情報公開を貫き、消費者である組合員に選択肢をとことん提供されます。どこかの国の政治家のように、耳にやさしいことばかり伝え、肝心なことを隠蔽することを良しとしないのです。

でも、普通に生活していると、食べもののこと、環境のこと、教育のこと、福祉のこと全てを知ることはとても大変なことです。

そこで、グリーンコープお願いとなるわけです。

そこだけ聞くと、全ての判断や選択を放棄し、他者に委ねていて、決して好ましいことではないように聞こえるのですが、30年以上、グリーンコープの皆さんと接してきた私は「グリーンコープは信頼できる」と自信をもって発信できます。

これからも、「みどりの地球を、みどりのままで、子どもたちに手渡すために」、活発に意見を交わし、議論を尽くし、グリーンコープ運動をすすめていってください。

私たちは「グリーンコープお願い」で後につづいていきます。

簡単ではございますが、ご挨拶とさせて頂きます。

2023年度 活動総括

ダイジェスト版

一、基調総括

はじめに

今年度は新型コロナウイルスが5類に移行し、活動の幅が一気に広がりました。コロナ禍では、組合員活動が大きく制限されていました。そのため、以前の活動していない活動組合員が多く、あらためて運動のあゆみを見直す機会を設けたり、再度学習したり、仕切り直しの時間をとったりもしました。みんなで再確認できて有意義な時間となりました。

「2027カーボンニュートラル」について、昨年度の臨時総代会で継続検討することが決まりました。今年度は5月に総代懇談会を実施した後に、6月8日に臨時総代会を開催しこの議題について意見交換し賛成多数で可決されました。時間をかけて進めてきたので、前年度より少しずつ周知がすすんだことを実感しました。何かをすすめていく時には伝える側がきちんと理解、納得し、一人ひとりが意見を出し、疑問を解消したうえで伝える言葉を持っているかということが必要になることを身をもって感じました。

臨時総代会では、「総代が可決したことに対しても意見があり、理事会に参加する監事のあり方についてご意見として真摯に受け取ると同時に、総代が自分の意見を発言する、そのような総代会の運営になっていることを感じました。

今年度は理事会宿をおこなうことで、前年度に対して成長を感じました。

12月に脱原発の映画上映とソーラーシェアリングの学習会を行い、多くの組合員の参加がありました。

【民衆交易】

fromネグロスセミナーを3箇所で開催し南と北の共生について連帯について学習し、fromネグロスクリスマスカンパに取り組み、店舗、K&Sでの募金箱での活動もおこないました。

【ファイバーリサイクル運動】

中部北九州のゆうあいの拠点である遠賀倉庫の検討が始まり、遠くても行きたいお店になるように意見交換をおこない、3月30日のオープンに向けて運営しました。支部によっては、回収や販売をおこない稼働的に活動を伝えています。

㈦グリーンコープの「福祉」を拡げます。

「夢ヲかたちに理事会」が発足して3年、グリーンコープの地域に根ざした福祉がますます拡がりました。子どもも認知度が上がり、困難を抱えている子どもたちやその保護者たちが安心していることができる居場所として地域に根付いてきました。

基金運用委員会の活動を通してグリーンコープの福祉を知り、もっと活動を続けたいと実感できた結果として、支部常任への就任に繋がった支部もありました。

「夢ヲかたちに理事会」が発足して3年、グリーンコープの地域に根ざした福祉がますます拡がりました。子どもも認知度が上がり、困難を抱えている子どもたちやその保護者たちが安心していることができる居場所として地域に根付いてきました。

基金運用委員会の活動を通してグリーンコープの福祉を知り、もっと活動を続けたいと実感できた結果として、支部常任への就任に繋がった支部もありました。

ふくしセンター おひらきの問題提起から、人材不足と経営改善を大きな課題として理事会 地域理事会でも積極的

無意味で恐ろしい戦争が早く終息することを願っています。また、ウクライナ難民、パレスチナ難民への人道支援をおこないました。

「名倉舎こどもの家」はグループ一つの発祥の地として、次年度新しく建て替えると連帯について学習し、fromネグロスクリスマスカンパに取り組み、店舗、K&Sでの募金箱での活動もおこないました。

【脱原発運動】

これまでも、命と共存できない原発に反対してきました。経済を優先させるために二酸化炭素を排出しない原発を再稼働させるという考え方に対しても「脱原発」を訴えていきます。

中部北九州のゆうあいの拠点である遠賀倉庫の検討が始まり、遠くても行きたいお店になるように意見交換をおこない、3月30日のオープンに向けて運営しました。支部によっては、回収や販売をおこない稼働的に活動を伝えています。

㈥グリーンコープの「福祉」を拡げます。

「夢ヲかたちに理事会」が発足して3年、グリーンコープの地域に根ざした福祉がますます拡がりました。子どもも認知度が上がり、困難を抱えている子どもたちやその保護者たちが安心していることができる居場所として地域に根付いてきました。

基金運用委員会の活動を通してグリーンコープの福祉を知り、もっと活動を続けたいと実感できた結果として、支部常任への就任に繋がった支部もありました。

ふくしセンター おひらきの問題提起から、人材不足と経営改善を大きな課題として理事会 地域理事会でも積極的

に取り上げました。その結果、多くの組合員が考えるようになり、ボランティアなどに繋がっています。

まとめ

気候変動、コロナ禍、ウクライナ危機やパレスチナ問題など、不安な日々が続きます。無関心でいることはできても、無関係でいることはできません。「今、私たちにできることは何か」を、組合員一人ひとりが考え、「支え合い、助け合う地域づくり」「住んでる街を住みたい街に」「みどりの地球をみどりのままで子どもたち」へ、を実践していきたいと思います。

多岐にわたるグリーンコープの活動は、支部ごとに組合員に分かりやすく伝えていくことが難しい時もあります。難しい内容、支部で意見交換が必要なものは全体での学習会の開催なども検討していきます。

地域生協化がすすみ地域性豊かに活動をしています。しかし、グリーンコープ生協ふくおかとしても統一して動いた方がいいものもあります。全体とは公平さを保つため統一したルールを持ちながらも、お互いの主体性を尊重し、しなやかに考え判断することをこれからも心掛けて統一して動いた方がいいものもあります。全体とは公平さを保つため統一したルールを持ちながらも、お互いの主体性を尊重し、しなやかに考え判断することをこれからも心掛けて

組合員の声を聞き、検討をすすめ、組合員がたのしくなるように、組合員の一人ひとりが考え、他の組合員の声を聞き、話し合う場を大事にする グリーンコープでありたいと思います。

二、2023年度 ふくおかワーカーズ 常勤理事会事業総括

㈠2023年度、期首の登録人数を年間通して増やし単協総体の黒字化年間供給高の270億円以上（配送共同購入235億円以上）、店舗事業35億円以上）を達成します。

・2023年度も7,454名の新規組合員を増やしていきます。

・前年の加入実績は7,506名でしたので、前年の実績に対して▲279名となりました。コロナが5類になった事も影響していたかもしれませんが、中々に厳しい1年となりました。

・配送共同購入と店舗事業の予測供給合計は方針の270億円以上を何とか超える状況となっていますが、今後より強化するためには、グリーンコープの仲間を増やしていくこと、伴って登録・配布・回収アップを図る事が重要となります。

・新たなSMS活用や紹介キャンペーン等も始めますが、ワーカーひとり一人の意識の向上含め、新たな挑戦や地道な努力も忘れることなく、課題に取り組んでいきます。

㈡2023年度も7,454名の新規組合員を増やしていきます。

・前年の加入実績は7,506名でしたので、前年の実績に対して▲279名となりました。コロナが5類になった事も影響していたかもしれませんが、中々に厳しい1年となりました。

・配送共同購入と店舗事業の予測供給合計は方針の270億円以上を何とか超える状況となっていますが、今後より強化するためには、グリーンコープの仲間を増やしていくこと、伴って登録・配布・回収アップを図る事が重要となります。

・新たなSMS活用や紹介キャンペーン等も始めますが、ワーカーひとり一人の意識の向上含め、新たな挑戦や地道な努力も忘れることなく、課題に取り組んでいきます。

・北九州の子育ての不安や孤立化の問題、ウクライナ難民、パレスチナ難民への人道支援を通じて、「命と共存できない原発に反対してきました。

・

毎年7月上旬に、総代会の議案書と採決結果を掲載したGREENWAVE臨時号を発行していました。総代会終了後は、GREENWAVE9月号に総代会で出された質疑応答などをダイジェスト版で掲載しています。

本年は、総代会が途中休会になったため、総代会報告をお届けできないままでした。12月になりましたが、第二十四期通常総代会について、議案とともに報告をお届けいたします。

総代会休会の経過

本（2024）年6月5日、グリーンコープ生協ふくおか第二十四期通常総代会を開催いたしましたが、総代会への参加資格をお持ちでない、組合員のご家族O様が無理やり会場に入られて、理事会や総代の皆様からの説得にも耳を貸していただけず、議長から発出された退場命令も無視されたうえで会場内に居座り、大声でご自身の主張を展開される、という行動をとり続けられましたので、やむなく昼休憩からの再開をせず休会としました。

O様は、本（2024）年6月7日、グリーンコープくらてに店、店舗組合員としての加入手続きに見えられました。受けて、本（2024）年6月15日の臨時理事会にて検討し、以下の理由でお断りさせていただくこととしたいたしました。

・グリーンコープ生協ふくおかでは、2011年に組合員加入について、「同一生計同一世帯での加入同一生計同一世帯での複数加入は認めません。」と整理を行っています。O様のご家族が組合員ですので、O様が加入することはできません。

・O様は、グリーンコープ生協ふくおかの組合員ではなく組合員のご家族であって、定款に照らして総代会への参加資格はないとあらかじめお伝えしていたにも関わらず、当日会場に来られ、理事会の制止を振り切って総代会会場に足を踏み入れ、理事会や総代の方が退出いただくよう再三お願いしたことを聞き入れることなく、総代会の進行を妨害されました。結果、グリーンコープ生協ふくおか第二十四期通常総代会は期日通りに完了せず、総代の皆さんにも多大なご迷惑をおかけすることとなりました。

このように、グリーンコープ生協ふくおかの最高意思決定機関である総代会をないがしろにした方を、組合員として迎え入れることはできません。

以上から、O様が店舗組合員として加入申込みをされたことについて、それをお断りさせていただくことを、本（2024）年6月15日の臨時理事会で決定し、ご本人にもご通知差し上げました。

妨害行為を行なった組合員のご家族と理事会との主張に食い違いが生じていましたので、裁判所に判断を委ねるとして、福岡地方裁判所に仮処分の申し立てを行いました。その結果、第二十四期総代会には出席してはならない、会場である福岡県中小企業振興センター内において、大声を出したり乱暴な言動をするなどして総代会を妨害してはならない、とする主文が8月26日に裁判所より届き、理事会の請求が全面的に認められました。

その様な手続きを経て、グリーンコープ生協ふくおか第二十四期通常総代会は、本（2024）年9月4日（水）、福岡県中小企業振興センターにて、10時30分より再開しました。

◇開会宣言
◇議長選出
◇議事録署名人選出
◇書記任命
◇総代会運営規約
6条に基づき、議事運営委員会を設置
◇議長を補佐する議事運営委員の選出・協議
◇本日の進行について
議事運営委員長より提案

議長

議事運営委員会からの提案に異議がなければ拍手でご承認ください。

総代A

以前、支部理事会で意見を言わせていただいた。地域委員会では組合員ではない方でもつどいなど参加できる。お店も初めての方やカードを持っていない方が来られてもどうぞとやっている。皆でお互い思いやりの心を持って関わっているからこそ、グリーンコープって素敵だと思う。その中で先日の総会の時に、意見を言いたい方を会場に入れないということがあった。理由は組合員ではないからだ。制度的には組合員の登録をしていないが、組合員の家族はグリーンコープの利用者。その人の意見を聞かないということはないのでは。グリーンコープは小さな意見を吸い上げみんなで納得いくまで話し合うのが良いところだと思っていた。オブザーバーでもいい。邪魔しようと思って来られたわけではない。私もグリーンコープはどこへ向かうのだろうかと思う。グリーンコープのことを真剣に考えていたあの方を、まるで犯罪者扱いにした理事や職員の方々に腹を立てている。

総代B

グリーンコープが変質していることを非常に残念に思う。発言の中身について制限があるような言い方だった。議案書に「組合員の声を聞き、検討を進めて運動を広げてまいります。」とある。230頁にも及ぶ議案書を30分の審議で終わらせるというのはおかしい。議事の運営は議長の問題だから議長がきちんと処理をしてくれることを願っている。

西岡専務

日常的に組合員のご家族から意見をいただくなど、組合員以外の方の質問を受け付けない対応はしていない。総代会はグリーンコープふくおかの最大議決機関。進め方が定款で定めてある。定款は生協にとって憲法のようなもの。その通りに進めるという事について理事会として責任がある。休会になった後に、次回も来場の意志を表明され、『組合員資格について』言い分が食い違うこともあり、理事会として総代会を運営する責任があると考えた。日本は法治国家なので裁判所へ申し立てるという形を取った。ご意見はいただいたが、対応についてはご理解いただきたい。議事運営に関しては、議事運営委員長から応答をお願いする。

竹島常務

会議の前に事前打ち合わせをしている、それに伴い議事運営委員長として説明した。

びん牛乳

総代B

6月に当日資料として配られた牛乳問題の特別報告。先日牛乳が変わり少なくとも8億円の損失が生じたとある。連合会の問題だとしても、ふくおかからも牛乳が出て30億円出資金を払い、分担金は19億円払っている。こんな大事な問題をそのままにしていくということはできない。8億円の損失については、一つひとつの生協の組合員に迷惑をかけない、値上げしないということでいけば、39名の理事が2000万円ずつ負担してカバーして欲しい。私たちの生協の供給価格に反映し組合員からお金を取ることはやめて欲しい。牛乳びんはリユースからリサイクルに変わった。今年の12月に産直びん牛乳ができる保障はない。そういうことがありながら、何十億円かの費用を出した牛乳の生産施設を作り、その生産施設も最終700万本の牛乳の供給見込みとなっている。牛乳の問題については、初年度2004年は一年間で1800万本売れたが、翌年には1300数十万本に下がり今は620万本売れる。これを700万本供給する、下郷農協等に対するお金は連帯保証することを認める事はできない。牛乳の政策を全面的に見直すこと、これが出来ないのであればグリーンコープふくおかの組合員の利益を守るために、グリーンコープ連合会への出資金を30億円から一口10万円に減額することを求める。今回の監査報告ではこの回の決算が正しい数字だと書かれてない。普通は正しく表記していると書かれる。80億円ぐらいの費用のうち半分以上40数億円は分担金と業務委託料としか書いてない。監事会が公認会計士に委嘱してという事については、監事会でご意見については検討していただく。

棚町常務

監事会が公認会計士に委嘱してという事については、監事会を開いて、報告書を作成し、検討させていただく。

西岡専務

牛乳の政策を全面的に見直す事、そうでなければ、連合会への出資金を減額することでご意見をいただいた。当然ふくおかの組合員に関わることで、理事会で検討する。牛乳の政策についていろいろなご意見があるが、グリーンコープ生協ふくおかとは違う事業体であるグリーンコープ連合会の総会で決定されることを前提としてご理解いただきたい。8億円の損害と言われたが、現在の試算は5億1千数万円になる。こちらを供給価格に反映させないで欲しいと意見をいただいたが、そのような計画意見交換等は行っていないので、そのことともお伝えしたい。監査報告については管理本部から後でお届けする。組合員に理解できるデータのお届けについても、今後理事会で検討させていただく。下郷農協の支援の仕方は、きちんとご報告させていただく。びん牛乳がこの会議に入らない状況があり、どのようにやっていこうかと悩みぬいて下郷農協と一緒にやっていくと決定した。パートナーである下郷農協が理不尽な状況により危機に陥っている事について、どのようにできるか考えたうえで提案し、同意いただける組合員にご利用いただいている。

総代C

総代は組合員に対して説明責任が発生している。総代会はグリーンコープふくおかの最高決定、決議機関だと言われている。私たちが総代として審議することが、今後の生協に大きく関わってくる。今回の事故で発生したことに伴う損害について、配布資料で損害額が10億円と言われている。実際は5億円くらいだと言うことがあった。むしろ理事会の方が間違っている。23年の11月に出された金額は10億円だが、今年1月に出された損害金額は8億円に下がっている。何故下がったのというのが書いてあれば納得できるが書いていない。ワンウェイの牛乳びんが1本90円。リユースではなくてリサイクルしていく。供給量が下がるとかかと思った。予測した供給量が下がれば投資した出金を回収するのは遅れる。供給量が増えることが可能かわからない。組合員が増えても牛乳の消費量が減っている現実がある。本当に回収できるのか不安に思う。このびん牛乳の損害額は連合の損害であって、グリーンコープふくおかは本当に関係ないのか。16の生協が一緒になって連合になり、それぞれ出資金を払っている。ふくおかは30億円の出資金を払っている。それは全部で出資金額が65億円と事前に配布された資料に書いてある。65億円の45％ぐらいになり分担金も払っている。元々組合員の出資金。連合はお金があっても、もともと私たち単協の組合員から出したお金が入っている。関係ないとはとても言えない。連合の牛乳政策がうまくいかない場合、私たちは牛乳が飲めなくなる。もしかしたら私たちの出資金を取り崩されてしまうかもしれない。下郷農協で牛乳を作る事に対して、最初牛1000頭と言っていた。それに対して酪農コンサルタントが「1000頭はリスクが大きすぎる」と、お金を借りるはずだった金融機関も「リスクが大きすぎるので貸せない」と言われた。専門家から見てもリスクが大きい事業。うまくいかないかもしれないという言葉は決して大げさではない。

西岡専務

損害額10億円と算出されているとご意見いただいた。2023年、2024年、2025年までで、おそらく2025年は、パスチャライズ牛乳が供給できないという事も考えられて試算されているのではないかと思う。6月28日に総代の皆様からお届けいただいたことに関するお答えに書いてある通り、2023年、2024年に発生すると思われる損害額を試算したものが5億1，545万円だと了解いただきたい。牛乳の本数が、700万本が現実的なのかという事に関して、2023年度は620万本だったのはその通り。牛乳びんの事故によって自由注文が受け付け出来ず、予約した方にしか供給できなかった。そのことに伴う減少のウエイトも大きく、その前の2022年までは680万から690万本供給していて、このこともきちんと踏まえて700万本と考えている。連合会とふくおかは関係ないということに疑問をご意見いただいた。そのように感じさせてしまったというのであれば申し訳ないと思う。ふくおかの予算や決算に連合会の損益が関係あるかないかという主旨にお答えしたので、そのように理解されたのかとは思うが、当然全く関係ないという事はない。牛乳政策がうまくいかない場合は牛乳が飲めなくなるというご意見をいただいた。確かにその通りで、しっかりうまくいくようにしないといけないが、このことに取り組まなくてもやはり私たちのびん牛乳を作ってくれる工場が今本当に見当たらない。今作ってくれている雪印メグミルクが作らないといった時点で、びん牛乳が手に入らない状況になっている。しっかり成功させて、引き続き、新しい牛乳を産みだして皆さんに供給できるようにしていく。

総代D

1月からパスチャライズ牛乳は供給できるのか。

坂本理事長

来年の1月からパスチャライズ牛乳が実際に届くのか、今できるように進めている。必ず1月からパスチャライズ牛乳をお届けするとは言えない。

総代E

みなさんグリーンコープを大事に思い組織自体をつぶしたくない思いがある。採決に入る前に荒れている状態は、私たち組合員も理事の方々も、全体に責任があると思う。牛乳問題にしても事前にもっとわかりやすい学習会をオンラインでもいいので、興味がある方や、特に総代の方が事前に学べるような内容を、ある程度かみ砕いて理解できる場を設けて、この場で「あなたはどう思いますか」というようにしていく。

総代F

30年ぐらい前、ふくおかの支部で食育の話の講師をした。牛乳は必須ではなく、日本人の体質には合わない。飼料がグラスベースであろうが牛乳は嗜好食品。お母さんの気持ち、子どもに安全なものを食べさせたい思いでできたグリーンコープなのでずっと信頼していたが、売れ筋の牛乳で今回痛い目に遭った印象を受けた。牛乳を推進するよりも、牛乳に代わり国内で自給できる別の食品開発で、健康に恩恵があるものを提案いただきたい。腸が悪くなるとイライラし、小麦粉と牛乳は健康を守る立場としては心配だ。

総代B

11年前、GREENWAVEの11月号にびん牛乳供給10周年で、産直びん牛乳危機的状況の記事がある。それによれば初年度1800万本、10年後800万本に減っている。一人当たりの利用数が減ったことが問題だが、他の理由が社会全体で牛乳が飲まれなくなった、産直びん牛乳の良さが理解されていないとある。初年度1800万本売れたという事は、1カ月にすると150万本。多分利用が増えたが、対応した分投資したものが回収できず、生産者とも全部縁が切れる状況になったと感じている。個別の問題を突き詰めなかったら、牛乳は売れない。下郷農協で問題なくある程度確保ができても、供給が下がるのはわかっている。牛乳の政策の変更をグリーンコープふくおかとして連合に問わないとだめだと思う。

坂本理事長

牛乳は必須ではないので、牛乳に代わる別のものも必要ではないかというご意見。皆さんの中でも考えられているかと思う。つどいが始まるので開発要望で上げれば、組合員の声が多いものは商品になっていく。皆さんの声をお待ちしたい。牛乳の需要は、皆さんがどれくらい飲むのか、組合員がこれから増えるのか全くわからない。予測はできても現実に即していかないとかわからない。減っていくかもしれないし増えていくかもしれない。私たちの新しい牛乳は、今まで以上に産直関係がある。今までできなかったものに、もう一回追及するような形で進めている。様々にあり一日後退するので、牛乳が飲めない事が出てくるが、2027年の1月から12月ぐらいで、今よりももっと良い、欲しいと思っている牛乳を作りたいと進めている。私はこの牛乳の運動と事業は推進していきたい。そう思わない方もいるだろうし、Bさんと同じような意見の方もいるだろう。そうなった場合、牛乳が飲めなくなることは確定している。メグミルクさんから契約終了と言う申し出があった。そのことに関してはグリーンコープからもお返事をするという形になる。牛乳を飲みたいという組合員がいる以上、びん牛乳を作っていく事が理事会としての役割だと思う。

総代G

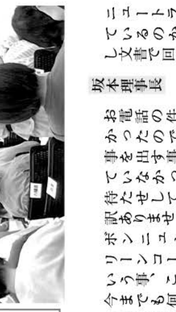
少し前までこの牛乳のびんの損失のことを知らなかった。被害額が5億円。事故と言われていたが、どうしたらそれが無くなるのか疑問。Zoom学習会では、その時は数え間違いでしたと言われた。後はこれから取り組む農場の話をされていた。私は今日ここに出ていない他の組合員に説明しなくてはならない。数え間違えで5億円の損失でびんが無くなったとは言えない。きちんと理解し、なぜこうなったのか説明しなくてはいけないので、理由を知りたい。また、儲かっているとしたら、なぜメグミルクなり、びんの工場なりが辞めるというのか。儲かっていたら企業は続けると思う。いい関係が出来ていたら何とかしましょうとなるのではと思う。一方的に向こうが辞めるからと言われ、全部相手が悪いような言い方をされる。良い関係を築いていくというのが企業の努力、グリーンコープの努力だと思うが、そこを感じられなかったので、その辺の話をしていただきたい。

西岡専務

ご迷惑をおかけして、本当に申し訳ございません。本当にお恥ずかしい話だが、全ては発注の間違えであると思うが、びんを作っていると思うが、びんを作らなくなった会社がびんを作らなくなった。良い関係が出来ていればという意見をいただき、確かに職員事務局が努力していないといけないと思うが、びんの工場を閉鎖する事になった経過があり、びんを作らないという通達が来た。今回新しい牛乳びんができるまでに「必要なびんの数をまとめて発注してくれたらその分は作りますよ」とおっしゃっていただいた。新しいびんのびん牛乳が登場するまでの間の必要数を出すとなった。間違えが、計算を間違え、後で不足する事になった。なぜ5億円の損失だという事についてだが、大きくはびんがリユースではなくてリサイクルになり、今までは使うことで作っていたびんが、毎回購入するということになり、びんの購入費用がかかる事で牛乳をお届けできなくなった事で生活クラブの牛乳を手配して、皆さんにお詫びをし、お届けするかたちになり、輸送費用もかかった。それ以外にも、びんがリユースではなくてリサイクルになり、職員でびんの入れ替え作業を行っている事や、自由注文が減ることで雪印メグミルクとしては、供給が減り、そのことを補填する費用や、プレミアム代とか生産者に払っている費用などがある。これも本来牛乳代に賦課して組合員の皆様からいただいていた。供給できず注文自体が無くなったが、生産者にお支払いするお金が減るわけではない。その分負担するお金などが、2023年、2024年5億1500万円損失したということになる。儲かっていたらとのことだが、確かにおっしゃる通りだと思う。当初からに比べれば供給本数が減ったという事もあり、老朽化した牛乳工場の設備を雪印メグミルクは企業判断として更新しない、もう維持できないといわれた。理解をしている。もちろん今後も事業を守るために、どのようにできるかということはしっかり考えていかないといけない。良い関係というのは本当にその通りで、グリーンコープも今回の牛乳事業で生産の主体になるということで、食べものを見直していく事に本当に取り組んでいくかないと、メーカーがやむを得ない事情で作れないという事になればグリーンコープ商品が供給できなくなる。その第一歩として新しい牛乳事業をしっかりと見ていきたい。

坂本理事長

学習会は、今回は牛乳のこと、カーボンニュートラルのことは、総代会の議決事項としていない。学習会をして欲しいという声もある。しかしそのことはきちんとは聞いていなかったこともあるので、じゃあ学習会をしましょうという事は理事会の中でもしていない。つどいが始まる。その中で牛乳のことを伝えていく皆さんも不安があり、地域組合員に伝えるその時、自分はどのように、どう対応しようとそういった声があがっている。それならば学習会があった方がいいのではという声が、先日の理事会で支部理事会から上がった。学習会をするかしないか、今、検討を始めると学習会をするのがつどいの後になってしまう。このタイミングで本当に皆さんが望まれている学習会ができるのかというのがある。一旦その学習会をどこの単位でするのか、理事会主催か、地域理事会単位か、支部理事会単位でもっとコンパクトにした方が良いのかも含めてこれからもう一回検討して、学習会をするとなったら皆さんたちだけではなく、オープンにするなどの形も含めて検討していこうと考えている。総代の皆さんは地域委員が沢山いると思う。学習会を開催して欲しいと思われるが、ぜひその声を上げて欲しい。先ほど言われた小出さんの学習会とか、丸山さんの学習会とか、地域の方、組合員の方から学習会をして欲しいという声が沢山上がった。また地域委員会、支部理事会から上がってきたら理事会でしようという事になっている。理事会でこの学習会をしましょうという事でいいですねということで雪印メグミルクとしてはっきりとお伝えしたいと言うのはとても大切だ。



カーボンニュートラル

総代A

ルは「騒がれないでください」と言われた。私も先日、「カーボンニュートラルってなんですか」と聞いてみたら、「ガソリンコーブのことです」と答えられた。ガソリンコーブは、ガソリンを使う車に対して、ガソリンコーブが出す分、ガソリンを使う人たちが、ガソリンコーブに対して、お金を払うシステムだと思っていました。ガソリンコーブは

閉会あいさつ

坂本理事長

皆さんの声で決めることを 大切にしながら これからも進めていきたい

皆さま、長時間お疲れさまです。ありがとうございます。だいぶ時間が過ぎてしまっております。お腹もかなり空いていらっしゃるのではないかな、と思います。

総代会が１回で終わらずに、総代会の再開という形で開催しましたが、実出席は増えていると聞いています。沢山の方にご参加いただいて、もしかしたら審議、採決を終えずに途中で出ていかねばいけなかったかたもいらっしゃると思いますが、審議に関わっていただき、とてもありがたいなと思っています。

特別報告や牛乳、カーボンニュートラルのことを聞きたいと、今日来られたかたもいらっしゃったと思いますが、時間が長くなってしまい、そこを聞けずに、残念な気持ちで今帰路につかれているかたもいらっしゃるのかなとも思っています。そちらは、本当に申し訳ないなと思います。

ですが、沢山の意見を出していただいて、もちろん理事会からの応答も皆さんに聞いていただいて、今日ここに来るまではもやもやしていたこと、聞きたいと思っていたこと、自分は聞けなくて他の方が聞いてくれたことで、「少しはすっきりした」「もうちょっともっと聞きたくなった」そういうことが新たにあるのかな、と思っています。

何回かお伝えしていますが、つどいが始まります。つどいの中で、みなさんは提案・主催者側になられるかたもおられると思っています。そこで地域の組合員とお話をしていただき、皆さんが思っておられることを伝えてもらっても構いませんし、ここで聞いたことをぜひ伝えていただきたいと思います。地域の組合員が疑問に思っていることをいろいろ聞き取っていただいて、支部理事会を通して理事会に届けていただけると、とてもありがいなと思います。

学習会のことも、ぜひ皆さんから「こういうものをして欲しい」「こう言うところがまだ足りていないのではないか」というアイデアをいただけると、私たちも積極的に学習会を開催していけると思っておりますので、ぜひよろしくお願いします。

途中で臨時総代会のご案内をしました。12月13日に臨時総代会をおこなって、カーボンニュートラルの組合員１パーセントの拠出とカンパの進め方について、皆さんに最終お諮りをしたいと思っています。その後に、拠出の確認書を皆さんに届けて進めていく形になっています。何回も何回も総代の皆さんに足を運んでいただく形にはなりますが、皆さんの声、組合員の声、総代の声、総代で決めることを大切にしながら、これからも進めていきたいと思います。

これから２０２４年度をやっと始める形になりますが、これからもどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（理事長　坂本　寛子）

▲議長を務められた
八幡西支部　宮崎多加惠さん
福岡西支部　立石　恵美さん

▲会場のようす

議案と採決結果

総代定数389名　有効票数377票（委任状を含む出席137名　書面議決書240名）

議　　案	採決結果
第一号議案：2023年度 活動報告承認の件	賛成357により 可決承認 保留13・反対7
第二号議案：2023年度 決算報告承認の件	賛成339により 可決承認 保留32・反対6
第三号議案：2024年度 活動方針決定の件	賛成325により 可決承認 保留35・反対17
第四号議案：2024年度 予算決定の件	賛成314により 可決承認 保留55・反対8
第五号議案：議案決議効力発生の件	賛成351により 可決承認 保留17・反対9

議　　案	採決結果
第六号議案：役員補充の件	賛成360により 可決承認 保留13・反対4

※議長2名は採決の数に含まれていません。

特別報告 2023年度一般財団法人グリーンコープ生協ふくおか福祉活動組合員基金運用報告の件
特別報告 2027カーボンニュートラルの実現に向けて
特別報告 牛乳に関するご報告

〈23年度決算と24年度予算〉

一、決算

⑴国内では新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザと同じ「５類」へと５月に見直され、経済活動の正常化が進みました。2020年から2022年までの３年間、グリーンコープ生協ふくおかは大きな剰余を生み出し、組合員の「夢ヲかたちに」を実現する原資とワーカーズの処遇改善を実現するためにワーカーズへの業務委託条件を改善しながら、累積赤字を解消して内部留保を行なうところまで到達しました。

⑵2023年度の人々の暮らしはコロナ禍から解放され、ようやく日常の暮らしを取り戻しています。グリーンコープの事業においては、コロナ禍での巣ごもり需要、行政からの委託事業が終了し、供給事業は全般的に低迷する事態となっています。その要因として組合員拡大の低迷から運動に参加する組合員を増やすことが出来ず、事業強化に繋げていくという面において厳しい状況となっています。

⑶この様な状況のもと私たちの生協事業は総供給高280億2,905万円で予算比98.0％（▲５億7,899万円）と予算を下回り、前年比97.8％（▲６億3,416万円）となりました。事業経費合計は78億6,850万円（予算比99.4％）、予算を4,696万円下回りました。事業外収支等１億253万円を受け入れ、税引前剰余金は１億8,436万円の黒字となり、昨年総代会で議決いただいた予算（２億958万円）から▲2,522万円となりました。

⑷法人税等5,578万円の計上を行い、当期剰余金は１億2,858万円です。

⑸当期首繰越剰余金２億639万円に当期剰余金１億2,858万円を計上し、３億3,497万円を当期未処分剰余金とします。当期剰余金処分として、法定準備金を3,400万円とし、次期繰越剰余金３億97万円とします。

二、予算

⑴供給高290億9.573万円、事業総剰余81億8,835万円を計画します。コロナ前（2019年度）の組合員拡大実績の120％を達成し、利用組合員を増やし、前年比103.8％の供給高を予算化します。

⑵事業総剰余81億8,835万円（前年比：102.9％、前年差：２億2,899万円）としました。部門別には、共同購入事業総剰余は70億3,233万円の前年比102.9％とし、店舗事業総剰余は11億5,068万円で前年比を103.1％上回る予算を立てました。

⑶税引前剰余２億4,071万円の収益を予算化します。前年から5,635万円の増収計画です。

〈単位：千円〉

	'23年実績	予算比	予算差	'24年予算	前年比
供給高	28,029,049	98.0%	△ 578,987	29,091,762	103.8%
供給余剰	7,511,965	99.0%	△ 77,768	7,739,483	103.0%
受取手数料	298,443	96.2%	△ 11,887	303,831	100.1%
共済手数料	143,728	98.2%	△ 2,573	143,719	100.0%
その他手数料	5,224	108.8%	424		
事業総剰余	7,959,259	98.9%	△ 91,805	8,187,033	102.9%
人件費	1,727,374	93.4%	△ 122,870	1,654,534	95.8%
物件費	6,141,127	101.3%	75,911	6,388,724	104.0%
経費合計	7,868,501	99.4%	△ 46,959	8,043,258	102.2%
事業剰余	90,859	67.0%	△ 44,845	143,775	158.2%
事業外収入	104,271	132.3%	25,429	98,507	94.5%
事業外費用	1,744	35.1%	△ 3,226	2,116	121.3%
経常剰余	193,385	92.3%	△ 16,190	240,165	1242.0%
特別損益	-9,025	0.0%	△ 9,025		
税引前剰余	184,361	88.0%	△ 25,215	240,165	130.3%
法人税等	55,779	0.0%	55,779		
税引後剰余	128,582	61.4%	△ 80,994		